

## 勉強を習慣にするには？

茗溪塾塾長 長谷 誠基

5月に入り汗ばむ気候になってきました。新型コロナウイルスの感染者は未だに多く、なかなか安心できない状況が続いています。子供たちの状況で昨年と違うのは、部活動です。緊急事態宣言が出た東京都は別ですが、千葉県などでは大会などが行われ、それに向けての練習も、ある一定の制限の中でやっているようです。土日などには、教室に向かうときに試合に向かう中学生らしき集団とすれ違うこともありました。「こんなに大人数で動いて大丈夫かな？」とも思いました。十分な感染対策のガイドラインのもとで行っているのですが、やはり少し不安に感じてしまいます。子供たちにとってみれば、何もできなかった昨年よりはいいのかもしれませんが。

5月という時期は子供たちも新しい環境に慣れてきて、人間関係もできてくる時期です。学校行事も始まり徐々に忙しくなってくると、勉強がおろそかになってしまうことも出てきます。ここで学習習慣を崩さずに行けるかどうか、大きく成績を上げるためのカギになります。授業で宿題を出すと、「こんなにたくさんの宿題なんかできないよ。」「どうして？」「だって、明日試合だもん。」こんな会話がよくあります。「1日中試合してないでしょ。終わってからやっても十分できるよ。」「疲れるから無理～。」こんな感じです。もちろん、これに負けているわけにはいきませんので、宿題は変えませんが、どうしてこんなやり取りが毎年起こるのかというと、まず、【部活＝楽しいこと】、【勉強＝つまらないこと】、のような定義が子供の中にできている場合は必ずこうなります。それから、子供たちは先の予測ができないことも大きく影響していると思います。大人なら、明日何かすることがあると、それについておおよその予測ができます。そして、その用事が終わった後にもう一つの用事を済ましてしまおうなどの、大体の計画が頭の中でできていきます。しかし、子供たちはまだ人生経験が少ないのでどうなるかの予測ができず、何か一つのことがあると他のことはできないと考える傾向があるのです。これは試合があってもできるという経験を積むことでクリアできますので、何とかやらせていきましょう。また、「やりたくない」という気持ちが大きいときは、「自分がやれない」理由を探していきます。またはやれなかったときの「言い訳」を探しておくことも多いと思います。それをなくすには【勉強＝つまらないこと】を変えていくことが一番ですが、それは簡単ではない。とすればできることは勉強を習慣にしてしまうことです。普段の生活の様々なことの中にまず大事なものとして「勉強」を位置づけてしまい、その隙間にいろいろなことを入れていくことができれば良いということです。頭ではわかっているんだけど…。という場合は簡単に解決する方法が一つあります。塾に来ることを習慣にしてしまうことです。学校の帰りに塾に寄って勉強する。または土曜か日曜の部活のない日の少しの時間でも塾に来て宿題をやる。今までの受験で成功している生徒たちは、必ず塾に授業以外でも来ている子たちでした。勉強を習慣づける一番の方法は塾に通うことを習慣にすることです。是非試してみてください。